

様式第8（第22条関係）

平成30年度電源立地地域対策交付金事業評価報告書

30環収第188号  
平成31年2月21日

秋田県知事 佐竹 敬久 殿

住所 大館市字中城20番地

氏名 大館市長 福原 淳嗣

平成30年6月29日付け指令資－463－6号をもって交付の決定の通知を受けた電源立地地域対策交付金にかかる交付金事業の成果の評価について電源立地地域対策交付金交付規則第22条第3項の規定により別紙のとおり報告します。

（注）（1） 別紙は次の事業評価総括表及び事業評価個表の様式によること。

（2） 用紙の大きさは、日本工業規格に定めるA4とし、横位置とすること。

別紙

I. 事業評価総括表（平成30年度）

（単位：円）

番号	措置名	交付金事業の名称	交付金事業者名又は 間接交付金事業者名	交付金事業に要 した経費	交付金充当額	備考
1	地域活性化措置	たしろ保育園運営事業	大館市	5,782,755	4,400,000	

（備考）事業が二つ以上の場合は必要に応じ欄を設けること。

II. 事業評価個表（平成30年度）

番号	措置名	交付金事業の名称				
1	地域活性化措置	たしろ保育園運営事業				
交付金事業者名又は間接交付金事業者名		大館市				
交付金事業実施場所		大館市岩瀬（たしろ保育園）				
交付金事業の概要		たしろ保育園の人件費（保育士6名）3ヶ月分。大館市は、大館市総合戦略に基づき、安心できる子育て支援の推進に向け、待機児童の解消を目指して電源立地地域対策交付金を活用し、保育等サービスの充実に努めています。				
交付金事業に関する都道府県又は市町村の主要政策・施策とその目標		<p>【主要政策・施策】 大館市総合戦略 基本目標1 健やかに次代を育む施策の推進</p> <p>【目標】 出生数に占める第3子以降の割合 21%（平成31年度） 合計特殊出生率 1.52人（平成31年度）</p>				
事業開始年度		28年度		事業終了（予定）年度		31年度
事業期間の設定理由		大館市総合戦略の終期まで				

交付金事業の成果目標 及び成果実績	成果目標	成果指標		単位	評価年度			32年度
	待機児童数 0	待機児童 数：入所希 望者数－入 所者数	成果実績					
			目標値					
			達成度					
	評価年度の設定理由							
	大館市総合戦略の評価年度に合わせて実施。							
	交付金事業の定性的な成果及び評価等							
本交付金の活用により、たしる保育園の保育士6名の人件費の一部を確保することができ、保育サービスの安定的且つ継続的な提供、並びに必要保育量の確保へ貢献できました。次年度も引き続き、保育士の確保に取り組み、保育サービスの向上を図ります。								
評価に係る第三者機関等の活用の有無								
無								
交付金事業の活動指標 及び活動実績	活動指標			単位	28年度	29年度	30年度	
	保育士の雇用量 (雇用人数(人)×雇用 期間(月))		活動実績	人月	15	15	18	
			活動見込	人月	15	15	18	
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
交付金事業の総事業費 等	28年度	29年度	30年度	備考				
総事業費	5,181,000	4,547,634	5,782,755					
交付金充当額	4,400,000	4,400,000	4,400,000					
うち文部科学省分	0	0	0					
うち経済産業省分	4,400,000	4,400,000	4,400,000					
交付金事業の契約の概要								
契約の目的		契約の方法		契約の相手方		契約金額		
保育士人件費		雇用		保育士6名		5,782,755		

交付金事業の担当課室	市民部環境課
交付金事業の評価課室	福祉部子ども課

- (備考)
- (1) 事業ごとに作成すること。
  - (2) 番号の欄には、事業評価総括表における番号欄に対応した数を記入すること。
  - (3) 交付金事業の概要の欄は、事業内容、必要性、期待される効果等を記載すること。
  - (4) 交付金事業に関係する都道府県又は市町村の主要政策・施策とその目標の欄は、当該事業が関連づけられている当該都道府県又は市町村の上位政策・施策とその目標を記載すること。
  - (5) 事業期間が複数年度にわたる事業については事業期間の設定理由を記載すること。
  - (6) 成果目標及び成果指標の欄は、交付金事業に関係する都道府県又は市町村の主要政策・施策とその目標を踏まえて定量的に記載すること。当該事業の定量的評価が困難な場合には、成果目標の欄に、定性的な目標を、交付金事業の定性的な成果及び評価等の欄に、定性的な成果及び評価を記載すること。
  - (7) 評価年度及び評価年度の設定理由の欄は、交付金事業の内容、成果目標及び成果指標を踏まえ記載すること。  
 なお、交付金事業の評価に第三者機関等を活用する場合、評価年度の設定には当該機関等による評価実施時期も考慮すること。
  - (8) 成果実績の欄は、評価年度に成果指標に基づき測定した数値を記載すること。ただし、評価年度が到来していない場合は、成果実績の欄は空欄とし、評価年度に別途、報告を行うこと。  
 なお、成果実績を別途報告する際に、交付金事業の評価に第三者機関等を活用する場合には、当該機関等による評価についても、併せて報告を行うこと。
  - (9) 交付金事業の定性的な成果及び評価等の欄は、上記(6)の定量的評価が困難な場合における定性的な成果及び評価の記載のほか、成果実績が目標値に達しない場合の要因分析及び次年度に向けた改善点並びに評価に第三者機関等を活用した場合には当該機関等の評価を記載すること。
  - (10) 評価に係る第三者機関等の活用の有無の欄については、第三者機関等を活用した場合にあっては、第三者機関等の名称及び構成員等を記載すること。
  - (11) 交付金事業の活動指標及び活動実績の欄は、当該事業の進捗度、利用量等の活動量を記載するこ

と。

- (12) 交付金事業の契約の概要の欄は、契約件数が二つ以上の場合には必要に応じ欄を設けること。
- (13) 交付金事業の担当課室の欄は事業を実施した課室を、交付金事業の評価課室の欄は事業評価を実施した課室の名称を記載すること。事業実施課室と評価実施課室が同一でも差支えない。